

お知らせ

令和8年3月30日

■同時発表先：合同庁舎記者クラブ、鳥取県政記者会、島根県政記者会、岡山県政記者クラブ、
 広島県政記者クラブ、山口県政記者会、山口県政記者クラブ、山口県政滝町記者クラブ、
 中国地方建設記者クラブ

「道路脱炭素化推進計画」を策定

～カーボンニュートラルに向けて道路分野の取組を加速～

- 現在、気候変動の深刻化により、災害の激甚化・頻発化が懸念されるなか、道路分野においてもCO₂排出の削減が急務です。
- こうした状況を踏まえ、中国地方整備局では、道路法改正を受け、「道路脱炭素化基本方針」に沿って、道路の管理・整備・利用の各分野で脱炭素化を検討してきました。
- 今般、これらの取組を体系的に整理し、脱炭素化の方向性を示した「中国地方整備局道路脱炭素化推進計画」を策定しました。

■推進計画で掲げる主な取組

道路管理分野	<u>道路関係車両の電動車化</u>	道路整備分野	<u>低炭素アスファルトの活用</u>
	<u>道路照明のLED化</u>	道路利用分野	<u>自転車通行空間の整備</u>
	<u>再生可能エネルギーの活用</u>		<u>渋滞対策の実施</u>
	<u>太陽光発電施設の設置</u>		

■CO₂ 排出の目標削減率 (2013年度比)

2030年度:約7割削減 2040年度:約9割削減

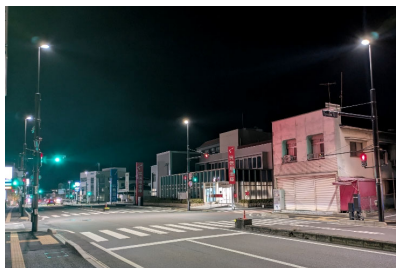
【道路管理分野の取組事例】

▼道路関係車両の電動車化



松江国道事務所 道路パトロール車(HV車)

▼道路照明のLED化



一般国道 185 号竹原市福祉会館前交差点

▼太陽光発電施設の設置



道の駅「キララ多伎」自動車駐車場上屋

※「推進計画」の詳細内容は、中国地整HPの関連サイトへ

⇒ <https://www.cgr.mlit.go.jp/douro/suisinkeikaku/index.html>

< 問い合わせ先 >

中国地方整備局 082-221-9231 (代表)
 道路部 道路計画課 課長 亀岡 敬和 (かめおか のりかず) (内線 4211)
 道路部 道路計画課 建設専門官 蔵本 直行 (くらもと なおゆき) (内線 4216)

道路法等の改正による脱炭素の新たな枠組み(概要)

第85回基本政策部会
資料抜粋(一部加工)

- 令和7年4月の道路法改正により、道路管理者が協働して脱炭素化を推進するため、国の道路脱炭素化基本方針に基づき、道路管理者が**道路脱炭素化推進計画**を策定する枠組みを導入
- 脱炭素技術の活用を促進するため、道路の構造に関する原則に脱炭素化の推進等への配慮を位置づけ、計画に基づく脱炭素化に資する施設等の占用許可基準を緩和

背景・必要性



気候変動に伴う
災害の激甚化・頻発化

**地球温暖化
防止**

2030年度46%、2035年度60%、2040年度73%削減※
道路関連分野のCO2排出量は全体の約18%

※2013年度比

全ての道路管理者による積極的な取組が必要

改正概要

道路管理者が協働して脱炭素化を促進する枠組みの導入

道路脱炭素化基本方針【国】

- 道路の脱炭素化の推進の意義や目標
- 国が実施すべき施策の基本的方針
- 脱炭素化推進計画の策定に関する基本的事項 等

方針提示

報告

道路脱炭素化推進計画【国、高速会社、自治体等】

- 道路の脱炭素化の目標
- 道路の脱炭素化の推進を図るための施策
- 計画の実施に必要な事項

脱炭素化技術の活用を促進

① 脱炭素化の道路構造への転換

道路構造について脱炭素化への配慮を明確化



LED照明
(消費電力約56%削減)



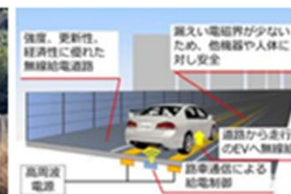
低炭素アスファルト
(CO2排出量7~18%削減)

② 道路空間における脱炭素化施設の導入促進※

道路空間において民間が活用できるよう道路占用基準を緩和



太陽光発電施設



走行中給電施設

※道路脱炭素化推進計画へ位置づけられるものに限る

道路関係車両の電動化

公用車等に対して、走行時に二酸化炭素の排出が少ない電動車の導入を検討する



松江国道事務所 道路パトロール車(HV車)



松江国道事務所 連絡車(HV車)

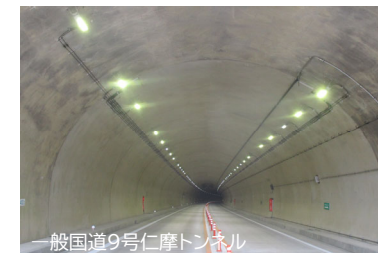
指標:道路関係車両の電動化率
目標:2030年度 100%

道路照明のLED化

道路照明やトンネル照明のLED化率を高め、道路管理分野の電力消費量を低減させる



一般国道185号竹原市福祉会館前交差点



一般国道9号仁摩トンネル

指標:道路照明のLED化率
目標:2030年度 100%

再生可能エネルギーの活用

道路の日常管理時に使用する電力調達時の入札要件とすることでCO2排出量を削減する

太陽光発電



水力発電



風力発電



地熱発電



バイオマス



太陽熱利用



指標:再生可能エネルギーの電力調達割合
目標:2030年度 60% / 2040年度 80%

太陽光発電施設の設定

自ら太陽光発電施設等を設置し、発電した電力を利用することでCO2排出量を削減する



鳥取自動車道の釜坂トンネル
付近にある釜坂電気室



道の駅「キララ多伎」自動車駐車場上屋

指標:太陽光発電施設の設置数
目標:2030年度 100%

低炭素アスファルトの活用

通常より低温で製造する中温化技術を用いた低炭素アスファルト合材の積極的な導入を促進し、舗装におけるCO2排出量の低減を目指す



令和4年度静岡仁摩道路静岡地区舗装工事

指標:低炭素アスファルトの工事件数
目標:2030年度 6% / 2040年度 14%

自転車通行空間の整備

安全で快適な自転車通行空間の整備推進により、自動車利用から自転車利用への転換を促進する



一般国道2号
広島南道路宇品地区 自転車道整備



一般国道2号
広島南道路宇品地区 自転車道整備

指標:自転車通行空間の整備延長
目標:2030年度 440km / 2040年度 700km

渋滞対策の実施

自動車の効率利用促進・需要平準化により、渋滞を緩和する



現道拡幅イメージ



立体交差の例(大樋橋西交差点)

指標:管内主要渋滞箇所
目標:2030年度 133か所

TDM(交通需要マネジメント)の実施

低炭素な移動手段への手段変更の促進等により、交通需要のマネジメントによる円滑な交通流を実現する



指標:TDM施策実施数
目標:2030年度 9か所

脱炭素化施設等の設置

EV充電器、シェア電動モビリティ器具等の設置を積極的に推進する



導入にあたっては、道路の占用許可基準の緩和措置を活用し、地域特性や道路利用状況を踏まえ、適切かつ効果的な道路空間の活用を図ります。

道路協力団体との協働

「ボランティア・ロード」の活動を通じて、道路環境の改善だけでなく、地域全体の脱炭素化に寄与する



中国地方整備局では、住民団体等が行う道路の緑化や清掃美化活動への支援を行い、積極的に住民の道路管理への参画を求める制度を「ボランティア・ロード」と呼称して活動しています。

サステナブルな取組

多様な主体との連携を図りながら、資源循環を重視した取組を推進する



「夢街道ルネサンス」は、中国地方の歴史・文化・自然を活かした街道再生を通じ、地域主体のまちづくりと交流を推進する取組です。

ネイチャーポジティブへの取組

生態系に配慮し、多様な生きものと共生する道路環境の実現を推進する



中国横断自動車道尾道松江線、国道54号において、警戒標識や路面標示、動物侵入対策型立入防止柵など、ロードキルの未然防止を図ります。

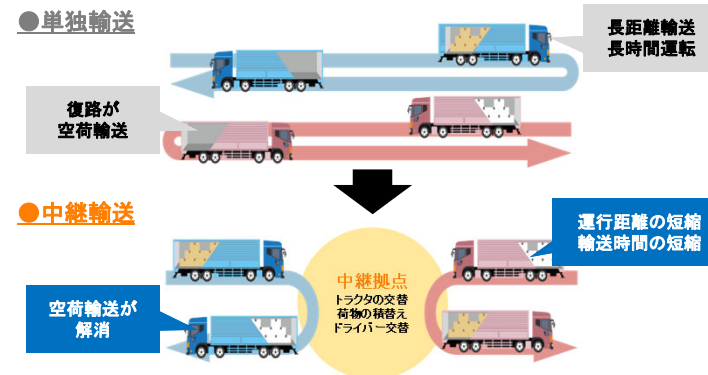
道の駅への太陽光発電設備の設置

駐車場の上屋等への太陽光パネル設置や防災用コンテナ型トイレの配備を推進し、CO2削減を目指す



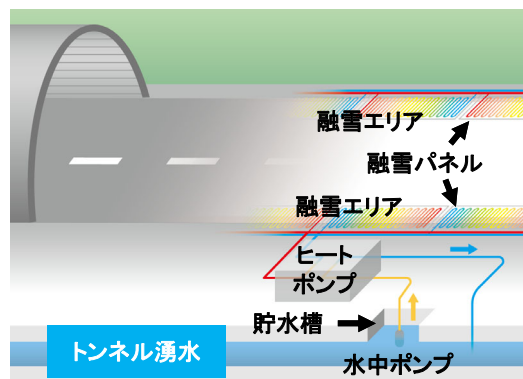
物流効率化への取組

コネクtpパーキングの整備により、空荷輸送縮減による排ガス削減や交通円滑化による排ガス削減が期待される



トンネル湧水・地中熱を使用した融雪

融雪に再生可能エネルギーを利用することで、CO2削減に貢献する



建設資材に地域資源を活用

地域の副産物・廃材を活用した低炭素型コンクリート等の導入により、製造過程におけるCO2排出を削減する

